



安心して入院ができるよう
私たちが支援します

入退院支援センター の紹介

入退院支援センターでは、患者さんがよりよい療養環境で入院生活が送れるよう支援を行っています。

平成30年11月からは、対応窓口の増設やスタッフを充実させ本稼働しました。入院予定が決まったその日から、患者さんやご家族が安心して入院の準備ができるよう、入院前後のスケジュールや入院に必要な事項についての説明を行っています。

看護師・コンシエルジュが病歴などの情報を伺い、薬剤師による内服薬の確認や、管理栄養士による栄養管理の計画、入院中のリハビリ計画など、多職種の専門スタッフが事前に患者さんの状況を把握し、連携しながら患者さん一人ひとりにあった療養環境を提供できるよう努めています。

また、医療ソーシャルワーカーなどの相談員は、福祉サービスの情報提供や転院の相談など、退院後の生活が円滑に行えるよう支援しています。

場所…市民病院 正面玄関1階
受付時間…平日午前8時半～午後5時

入退院支援センターでは、主に次のことについて説明・確認や支援を行っています。

- ①入院に必要な書類、持ち物、入院生活についての説明
- ②服薬中のお薬（お薬手帳）の確認
- ③病歴や食事等身体的な状況の確認
- ④他の医療機関の受診状況や福祉サービスの利用状況などの確認
- ⑤入院や退院後の生活についてなど不安に対する支援



がんの免疫療法

副院長 杉山 保幸



人間のからだには外から侵入した異物、すなわちアレルギーの原因となる物質（アレルゲン）や病気のもととなる微生物（細菌やウイルスなど）を排除して生命の安全を保とうとするしくみが備わっており、これを『免疫』と呼びます。一方、人間のからだの中には正常細胞の遺伝子にキズがつき、そのキズが積み重なって発生したがん細胞に対しても免疫が働くのかという疑問については長い間議論がなされてきました。しかし、1991年にがん細胞を狙い撃ちできるという免疫のしくみが明らかにされ、時期を同じくして2018年度ノーベル医学生理学賞受賞のアリソン教授（アメリカ合衆国）と本庶教授（日本）が、がんに対する免疫を邪魔する物質が存在することを発見されました。別個のタンパク質で

はありましたが、それらを封じ込めば免疫によってがんを排除できるという考えのもとに研究が進められ、『免疫チェックポイント阻害剤』と名付けられた新たな治療薬が開発されました。2018年10月現在で、肺がんや胃がん、悪性黒色腫、腎がんなどに使用されていますが、がんが小さくなった場合には効果が長期間にわたって持続する例も多いと報告されています。ただ、効果が期待できるのは20〜30%の患者さんと推計されており、高額な薬でもあるため、どのような特徴を持ったがん患者さんに効くのかを予測できる『目印』を見つけることが重要課題となっています。また、免疫チェックポイント阻害剤はがんに対する免疫以外の免疫応答においても『ブレーキをはずす』可能性があるため、これまでに経験したことのない副作用も報告されています。

人間のからだが持っている免疫能力を利用したがん治療法はこれまでもいろいろと試みられてきました。キノコや細菌から抽出した物質を用いてがんに対する免疫を調節する方法や、がんと闘う兵隊であるリンパ球をからだの外へ取り出して試験管の中で攻撃力を高める訓練を行ってから、もう一度

からだの中に戻すという『細胞移入療法』などが工夫されましたが、目の目を見るまでには至りませんでした。また、がん細胞にのみ存在し、正常の細胞にはみられない物質を特定し、それを利用してがんを退治しようとする『がんワクチン療法』も、現在臨床研究が実施され、成果が蓄積されています。さらに、最近になってがん患者さんから取り出したリンパ球に遺伝子操作を行い、がん細胞が出す信号を認識して攻撃できるようにしてから体内に戻す治療（キメラ抗原受容体発現T細胞療法）が開発され、欧米ではすでに承認されています。なお、これまでは『がんに対する免疫を強化すればがんをたたくことができる』という発想に基づいて行われてきましたが、免疫チェックポイント阻害剤による治療は、がんが免疫から逃れようとするしくみに着目し、それにメスを入れたという点で画期的なアイデアということになります。

いずれにしましても、個々の免疫療法を単独で行うだけでは限界があり、いろいろな治療方法を組み合わせることで効果を増強させる工夫が今後は必要になってきます。すなわち、作用機序の異なる免疫チェックポイント阻害

**痛みが少ない最新型
3Dマンモグラフィ
装置(乳房用X線撮影
装置)を導入しました**

乳腺外科部長 中田 琢巳

マンモグラフィ装置について

当院では乳癌診断に使用されるマンモグラフィ装置を更新し、富士フィルムメディカル社製AMULET Innovativity FDR MS-3500(以下AMULET)という最新型でハイスペックな撮影機器を導入しました。平成30年11月26日から新装置での検査を開始しています。

マンモグラフィ検査について

マンモグラフィ検査とは乳房を2枚の板で挟んで平らにのばした上でレン

トゲン写真を撮影する検査です。

このような状態でレントゲン写真を撮ると乳房内の様々な構造物が影絵のように重なった状態で画像となつてきます。この中に乳腺構造とは異なるものがあるとは病変として検出でき、乳房を薄くすればただけきれいな画像が得られて異常を検出しやすく病変の見逃しも少なくなるとされています。

ただし乳房中の乳腺量には個人差があります。乳房に占める乳腺の割合は年齢とともに低下するとされ、これは肥満度や月経、女性ホルモン補充療法、出産、授乳といったホルモン環境など様々な要因と関連があるといわれます。乳腺はマンモグラフィ上では白く写り、この程度の強い人を高濃度乳房といえます。高濃度乳房は病気ではありませんが、マンモグラフィ検査では乳癌も白く写ってきますので重なる見えづらくなり発見しづらいことが知られています。一般に若い方は高濃度乳房となる割合が高く、年齢とともに脂肪性乳房となつてくることが知られています。また、日本人女性には同年代の欧米人と比較すると高濃度乳房となる方が多いとされています。

このため乳癌のマンモグラフィ検診は高濃度乳房の方の割合が多い若年者

ではそれほどおすすめることができません。40歳以上で、より高齢の方が推奨となつています。また検診ではなく乳房にしこりや異常分泌の症状がある場合ではこの限りではなく、若年者でもマンモグラフィで確認する必要がある場合もあります。

痛みが少なく、3D画像で高濃度乳房にも対応した最新型のマンモグラフィ装置。撮影は全員女性スタッフで行っています。



① 新規導入のマンモグラフィ装置の特長

従来装置では、乳房撮影をする際に

プラスチックの硬い圧迫板で乳房を強く撮影台に押さえつけて撮影するため、苦痛を感じることがありました。

AMULETでは、優しく乳房(乳腺)全体にフィットする圧迫板を用いることで圧力を分散することが可能なため、痛みが軽減できるようになりました。

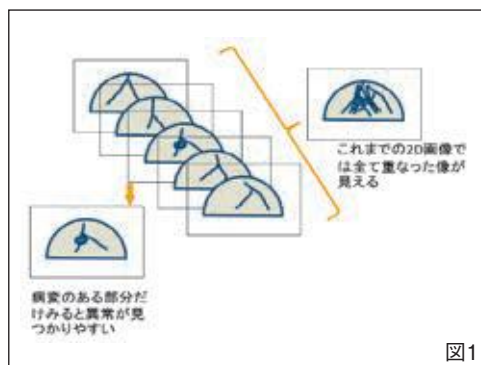
② 被ばく量の低減

マンモグラフィの一回の撮影で乳房が受ける放射線の量は、東京〜ニューヨーク間の飛行機の中で受ける宇宙からの自然の放射線量の約半分とされ、放射線が人体へ及ぼす危険性は、ほとんどありません。AMULETでは線質補正技術・微細構造鮮明化処理などから画質が向上し、同じ2D画像の場合、現在よりも低線量で放射線被ばくを減らした検査が可能となりますので更に安心して検査を受けていただくことができます。

③ 高画質な画像(トモシンセシス機能)により高濃度乳房にも対応

AMULETでは最新の機能であるトモシンセシス(3D撮影)で撮像ができます。従来のマンモグラフィ画像の問題の一つはどんなに薄く乳房を引きのばしても前述のように三次元の乳房内構造が二次元の画像に重なって投影される点です。特に高濃度乳房構造と重なっている場合は、病変が隠れてしまつて偽陽性や偽陰性と診断されやすくなります。トモシンセシスは乳腺

を薄くスライスした画像を数十枚取り出すことができますので従来の2D画像では乳腺の重なりから隠れて見えなかった病変が確認し易くなり診断能の向上に期待ができます(図1)。トモシンセシスの助けを借りることで、多くの偽陽性診断や誤診、バイオプシー検査を減らすことができます。



④ 確定診断のための検査(マンモトーム生検)

AMULETのマンモトーム生検では石灰化病変に対してより正確な鑑別が可能となります。視認性が向上するため淡い石灰化でもマンモトーム生検を行うことが可能になりますので石灰化病変に対して、より正確な鑑別が可能となり早期の治療につなげることができます。

肝胆膵がんドックのご案内

健康管理センター（人間ドック）

現在、日本人の2人に1人が何らかのがんに患し、約3人に1人が、がんで死亡しています。死亡数が多いがんの順位は、肺がん、大腸がん、胃がん、膵臓がん、肝臓がんと続き、5年生存率（治療後5年間生きる確率）は低い順に膵臓がん、胆のう・胆管がん、肺がん、肝臓がんと続きます（国立がんセンターがん情報サービス最新がん統計より）。

肝臓がん、膵臓がんの特徴は、自覚症状に乏しく、不調を感じて受診したときにはすでに進行していることが多いため、一般健診ではなかなか病変を指摘しえないことです。そこで、当該領域がんの早期発見を目的とした健診システムである肝胆膵がんドックを構築しました。

通常は超音波検査やCT、MRIを「単独で行い診断の一助としますが、確認領域の死角や放射線被ばく、要する時間など、実は各検査には不得手部分があり、いずれも完璧ではありません。

肝胆膵がんドックでは、各検査を組み合わせることでお互いの弱点を補完し、可能な限り早期に、病変を検出することを目的としています。興味のある方は、当院健康管理センターまでお問い合わせください。（☎215-5128）

		Aコース	Bコース	Cコース
対象年齢		50歳以上※	50歳以上※	-
健診料		50,000円(税込)	33,000円(税込)	27,000円(税込)
実施曜日		水曜日	月曜日・金曜日	水曜日
所要時間		約3時間		
検査項目	MRI	●		●
	造影CT	●	●	
	腹部超音波	●	●	●
	血液検査	●	●	●
	便検査			●
結果説明	専門医が結果票を元に説明をします。約1週間後に予約をお取りします			
特徴	すべての検査を行うコース	MRIが苦手な方（閉所恐怖症の方）向けのコース	無被ばくコース	

※造影CT検査は被ばくを受けます。被ばくの影響を考慮し50歳以上を対象としています。家族に膵がん患者がいる等の因子がある方は、ご相談ください。

地域がん診療連携拠点病院 市民のためのがんセミナー

参加
無料

日時 平成31年2月23日(土) 午後1時～午後3時

会場 当院西診療棟4階 サルビアホール

テーマ 「正しい情報を知ること、伝えること」
情報があふれる世の中で正しい情報を得る方法や、家族や周りの人に正しく伝える方法についてわかりやすくお話しします。

基調講演 若尾文彦(国立がん研究センターがん対策情報センター長)
その他、患者会・患者支援団体代表者やがん経験者による講演を予定。

申込方法 住所、氏名、年齢、電話番号を記入して、2月15日(必着)までに、郵送、FAX(058-252-1335)、または当院ホームページの申込フォームでお申込みください。

問い合わせ先 岐阜市民病院 病院政策課
岐阜市鹿島町7丁目1番地 ☎058-251-1101 内線4307

外来診療のご案内

○診療科目・・・内科、糖尿病・内分泌内科、精神科、神経内科、呼吸器・腫瘍内科、消化器内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、歯科、歯科口腔外科

○休診日
土・日・祝日と12月29日～1月3日
※詳細はホームページでも紹介しています。
市民病院ホームページ <https://gmhosp.jp/>



岐阜市民病院

〒500-8513 岐阜市鹿島町7丁目1番地
TEL 058-251-1101(代表)
編集発行：岐阜市民病院 広報委員会